

補助金対象事業報告書(平成24年度)

法人名	認定NPO法人 生態工房 (平成 14 年 7 月法人設立)		
事業名	玉川上水における外来生物アライグマの生息調査事業		
事業費	406,542	補助金額	300,000

1 助成対象事業費内訳(実績)

収入		予算額	決算額	決算額内訳
	団体負担金	66,000	36,542	会費・寄付
	参加費・資料代等			
	その他の収入	70,000	70,000	とうきゅう環境財団助成金2012年度
	NPO支援基金助成	300,000	300,000	
	計	436,000	406,542	

支出	費目	予算額	決算額	決算額内訳
	報償費	150,000	199,000	講師謝礼@15,000円×1人=15,000円 野外調査 講座運営補助アルバイト@8,000円×1日* 延べ23人=184,000円
	旅費	94,000	67,500	講師交通費@2,500円×1人=2,500円 スタッフ、アルバイト、ボランティア交通費65,000円
	備品費・消耗品費	155,400	114,542	折りたたみ式リヤカー@29,800円×1台=29,800円 餌トラップ用肉団子等@2,444円×1式=2,444円 チラシ印刷費@4,600円×1回=4,600円 アライグマ足跡採取用園芸粘土@980円×50袋=49,000円 プリンターインク代@10,730円 事務消耗品、トラップ作成用具等@17,968円×1式 =17,968円
	役務費	12,000	15,900	ボランティア保険料=15,900円
	使用料・賃借料	24,600	9,600	学習会会場費用@4,600円×1部屋=4,600円 プロジェクター使用料@5,000円×1回=5,000円
	その他の経費			
	計	436,000	406,542	

2 事業の目的・内容

目的	東京都の歴史環境保全地域として地域住民に親しまれている玉川上水、特に小平市から杉並区にかかる中流部16kmは、都市部に残る樹林帯として在来生物の貴重な生息環境になっています。しかし、近年この地域で外来生物アライグマの目撃例があり、今後、生態系への悪影響や農作物の食い荒らし、一般家屋の汚損など様々な被害が懸念されています。そこで、当事業では玉川上水における生物多様性の保全と杉並区内におけるアライグマの被害を予防するため、玉川上水中流部におけるアライグマの生息状況を把握します。
計画内容	杉並区内の玉川上水にかかる浅間橋(久我山1丁目)から牟礼橋(久我山3丁目)までの水路1.2km区間を対象としたアライグマの生息調査を行う。市区役所、公園管理者等からの目撃情報の収集やインターネットを使って市・区民から目撃情報を募集する。アライグマの生態系被害と外来生物問題を普及するため、区民を対象としたアライグマ学習会を開催する。

3 事業の実施状況

	事業計画時(予定)	事業実施時
実 施 状 況	<p>1. アライグマ等中型哺乳類生息調査 <日時> 2012年4-5月,11-12月,2013年1-3月 <方法、体制> 毎週1回程度、スタッフ1名、アルバイト1名、ボランティア2名が一緒に行なう。</p> <p>2. 市区役所、緑地管理者団体、JA等から目撃情報の収集 <時期> 2012年5月-2013年3月 <方法、体制> 関係団体、部署に電話や訪問で聞き取りする。アルバイト1名、ボランティア2名が行なう。</p> <p>3. 玉川上水アライグマ学習会の開催 <時期> 2012年10月-11月 <方法、体制、設備> 1回開催、定員30~60名。参加費無料。講座開催の企画、資料作成、講座運営をする。外部講師2名、スタッフ1名、アルバイト1名、ボランティア2名で行なう。会場は久我山会館集会室とする。ボランティアは杉並区民を募集。</p>	<p>1. アライグマ等中型哺乳類生息調査 <日時> 2012年4-5月,11-12月,2013年1-3月 <方法、体制> 毎週1回程度、スタッフ1名、アルバイト1名またはボランティア1名が一緒に行なった。</p> <p>2. 市区役所、緑地管理者団体、JA等から目撃情報の収集 <時期> 2012年4-5月 <方法、体制> 都内の市区町村、JA、捕獲業者等に電話で聞き取りした。スタッフ又はアルバイト1~2名が行なった。</p> <p>3. 玉川上水アライグマ学習会の開催 <時期> 2012年10月28日 <方法、体制、設備> 久我山会館にて開催。参加者は33名、参加者から回収したアンケートによると区内在住または在勤者が少なくとも14名いた。学習会では生物多様性JAPANの金田正人氏が講演し、当会スタッフが杉並区での生息調査の進捗について報告した。企画・運営はスタッフ1名、アルバイト1名、ボランティア2名で実施した。</p>

4 実施事業の効果・成果

	事業計画時の「期待される効果」	事業実施後の「実際の効果・成果」
効果・成果	<p>身近な自然で起こっている外来生物問題を区民に普及啓発します。これによって、社会における生物多様性という概念の主流化に貢献します。生物多様性の主流化は「愛知ターゲット」(2010年に第10回生物多様性条約締約国会議において採択、2020年までに実現すべき国内の生物多様性を保全に関する20の先着的目標)の実現に貢献すると考えます。</p> <p>本事業を契機として、アライグマに関するより広域的な分布調査が様々な主体によって実施され、東京東部におけるアライグマの生息状況が明確に記載される可能性があります。そして、これらの広範な調査結果が集約され、早い時期に当該地域でアライグマの計画的な防除対策が検討されることも期待されます。これにより、杉並区を含めた対象地域において、アライグマによる生態系被害、農業被害、生活被害が最小限におさえられることが期待されます。</p>	<p>アライグマ学習会に参加した33名のうち、26名からアンケートを回収したところ、「学習会に来て良かった」と答えた人が25名いました。また、学習会を終えて「アライグマを識別できますか?」という問いには、回答者26名のうち17名が「識別できる」、9名が「わからない」と答え、「識別できない」と答えた人は1人もいませんでした。この結果から、学習会の開催は参加者に対してアライグマに関する知識を深め、玉川上水や身近な自然で起こっている外来生物問題の普及啓発につながった可能性が高いことが分かりました。</p> <p>当事業と同時期に、東京都環境局ではアライグマやハクビシンの防除対策と防除マニュアルの策定に関して、専門家らを招いた検討委員会を開催しました。この会議に当会はオブザーバーとして参加し、都職員や委員らと玉川上水の現状について意見交換を行いました。このほか、久我山を拠点に活動するまちづくり団体「久我山緑の散歩道」と協力し、玉川上水を含めた久我山周辺の自然と区民との共生を目指した街づくりの実現に向け、意見交換やワークショップを実施しました。当事業がきっかけとなって、様々な主体とのネットワークが広がり、課題解決を目的とした協働の可能性が高まりました。</p>

5 自己評価

自己評価 1	事業は当初の予定どおり実施できましたか
	<input checked="" type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> 概ねできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> ほとんどできなかった 玉川上水での生息調査、市区役所やJA等からの目撃情報の収集、玉川上水アライグマ学習会の全てを予定通りに実施することができました。生息調査では杉並区(1.2km)も含めた中流部18km全ての区間を広範に調査することができ、玉川上水周辺のアライグマの生息状況を把握することができました。目撃情報の収集も予定通りに行なえ、都内全域の市区町村から情報を集めることができました。アライグマ学習会では、予定していた30名以上の参加があり、講師からアライグマを初めとした外来生物問題や問題となる理由や現状などの説明、調査員から調査現況や目撃情報の収集について伝えることができ、普及啓発ならびに目撃情報の収集も行えた学習会となりました。また、区内在住・在勤が約半数の14名以上参加していました。
自己評価 2	当初に想定していた「期待される効果」をあげることができましたか
	<input checked="" type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> 概ねできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> ほとんどできなかった 生息調査中に会った方や学習会参加者など、身近な自然での生息調査やアライグマ学習会を通じて、市民に身近で起こっている外来生物問題の普及啓発ができました。特に学習会に参加した方はアライグマの識別ができると答えの方が多数おり、アライグマに対する意識を高めることができました。また、講師によるわかりやすい説明によって、何が問題なのか理解出来た等の感想が出ました。そして、外来生物問題を通じて、身近にいる生きものたちに目を向けるきっかけができ、外来生物問題のみならず生物多様性という概念を知ることにつながりました。調査は、当初の予定通りに杉並区を含む18kmにおよぶ広域で実施でき、玉川上水周辺でのアライグマの生息状況を知ることができました。本調査をきっかけに、早期の生息状況の把握や計画的な防除対策の検討につながることが期待できます。
自己評価 3	今回行った事業を通して、理解者や支援者は広がりましたか
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> 広がらなかった 当生息調査では、調査中に住民から声をかけて頂くことが多々ありました。そのため、身近な場所で問題になっている外来生物アライグマなどによる外来生物問題を説明できました。その結果、外来生物問題への理解者が増えるとともに、目撃情報の提供をしてくださる方もいました。アライグマ学習会では、アライグマなどの外来生物の何が問題なのかという点を理解して頂くことができました。生息調査やアライグマ学習会などの活動を通して、当会の存在のみならず、活動を知って頂くことができ、当会への理解や様々な形での支援につながりました。

6 今後の課題と活動について

今後の課題と活動	今後は、この成果を当会HPや学会等で公表します。杉並区で得られた当事業の成果を、より多くの市民と共有し、アライグマや外来生物問題の関係者や研究者に活用してもらいます。また、国や他の自治体にもアライグマ防除対策に資する基礎情報として、積極的に提供していきます。 当事業においてはアライグマの生息有無を確認することはできましたが、実際の生息個体数などを明らかにする定量的な調査は実施しませんでした。今回の調査によってアライグマが生息していたことが判明した地域では、より詳細な調査を継続することが必要です。 現在、対象地の玉川上水は整備活用計画が進んでいます。杉並区内ではないですが、一部の地域では玉川上水の樹林帯の大伐採が進んでいます。こうした環境の急激な変化によって、アライグマの行動や利用場所が変化する可能性があります。今後は整備計画の進行とともに、玉川上水とその周辺地域におけるアライグマの分布変化を追跡する必要があります。
----------	---

7 普及啓発活動について

普及活動

当会ホームページで広報、「すぎなみNPO支援基金のページ」にリンクを貼りました。
アライグマ学習会の募集チラシに「すぎなみNPO支援基金」マークを掲載、このチラシを200枚配付しました。
アライグマ学習会の会場に「すぎなみNPO支援基金」のマークを掲示しました。学習会の参加者は33名。
当会事務所の玄関と表札の上に「すぎなみNPO支援基金」のマークを掲示しました。

8 活動状況について

